

「改訂 平面交差の計画と設計 基礎編 第2版」改訂のお知らせ

平成 19 年 7 月 1 日

「改訂 平面交差の計画と設計—基礎編—第2版」の発行から約3年が経過し、この間に「改訂 交通信号の手引」(平成18年7月発行)において、「需要率」などの交通信号制御に関わる重要な用語の変更が行われました。第3版は、これらの変更を反映したものです。

	改訂 平面交差の計画と設計 —基礎編— 第2版 (平成16年7月)	改訂 平面交差の計画と設計 —基礎編— 第3版 (平成19年7月)	コメント
36, 56, 66, 84, 85, 86, 90, 97, 111, 126, 129, 132, 135, 136, 138	正規化交通量	交差点流入部の需要率 又は、需要率	特に、ある「交通流の方向が同一な車線」または「交差点流入部」を対象とすることを明記する場合には、「交通流の方向が同一な車線の需要率」、「交差点流入部の需要率」と表現してもよい。
36, 56, 58, 60, 66, 81, 84, 85, 86, 98, 111, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 120, 122, 126, 128, 129, 131, 132, 136	現示の飽和度 交差点の飽和度 飽和度	現示の需要率 交差点の需要率 需要率	一般的な概念として、「飽和交通流率(s)に対する交通需要(q)の比(q/s)」を表す表現として用いることができる。 ちなみに、「交通容量(sG/C)に対する交通需要(q)の比(qC/sG)」とは意味が異なる。(ここに、 C :サイクル長[秒], G :青時間[秒])
46, 54, 66, 111, 112, 133	停止線間距離	クリアランス距離	クリアランス時間を求める際に用いる距離は、必ずしも「停止線間」の距離とは限らないため、停止線から動線の交差点迄の距離を明示的に表す概念を用いることとし、表現も改めた。